



Polaris news

【北高ニュース NO.202110】

「ICAN 講演会」 イエメン・シブチ難民問題 (2021.11.9)

国際理解コース1年生を対象に、ICANの古谷小夏さんにお越しいただき、イエメン・シブチの難民問題についてご講演していただきました。イエメンについてクイズで学んだあと、イエメンの現状を写真やビデオを通してよりリアルに知ることができました。その後、ICANが行っているシブチにある難民キャンプでの活動についてのお話やビデオを見せていただき、活動内容と現地の様子がよく分かりました。講演後は、グループに分かれて「なぜ世界の課題を考えることが大切なの?」「世界の課題を解決するために高校生にできることって?」など4つの質問について意見を出し合い、世界の課題と自分を結びつける貴重な時間となりました。



■生徒の感想より

- この講演会で一番心に残っている言葉があります。それは、「人びとの『ために』ではなく、人びとと『ともに』」です。上から目線ではなく、共に考え、行動することが大切なのだと教わりました。
- クラスメイトと意見を出し合った4つの質問の中で私が一番心に残ったのは「高校生の今、自分達に何ができるか」です。今日にでも実行できそうな意見も出て、今まで改善策を思いついても諦めたり、できなかったりして、自分にできることはないと感じていた私の考えを変えました。大きいことをする必要はなく、小さいことでも、今自分一人だったとして、できることで動けばいいんだと思いました。
- 私が思っていた以上にイエメンでは紛争の問題が深刻だと感じました。町の悲惨な状態の写真を見て、すごく心が痛くなりました。そして、ビデオで実際に被害にあった子の訴えを聞いて、もっとたくさんの人に聞いてもらい、イエメンの現状を知ってもらいたいと思いました。